

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(4年計画の4年目)

1. 研究課題

3世紀東アジアの研究

A Study of East Asia in the Third Century

2. 研究代表者氏名

森下 章司

MORISHITA Shōji

3. 研究期間

2018年4月-2022年3月(4年目)

4. 研究目的

3世紀の東アジアは、中国における漢王朝の滅亡、三国への分裂をきっかけとして韓・倭の地域勢力が勃興、地域社会が独立性を強めた変動の時代であった。そうした状況を物語る資料として『三国志』をはじめとする文献があるほか、とくに近年は各地の考古資料も増大し、多くの研究成果が蓄積された。こうした3世紀における地域社会の特色や相互関係に関して、考古学・文献史・思想史の各分野と各地域の専門研究者による共同研究と議論を通じ、多角的な視点から検討をおこなう。①『三国志』烏丸鮮卑東夷伝のテキスト読解、②考古学による各地の生活形態・社会制度復元との対比、③各地域の独自性と共通性の比較、④地域間交流の検討などを軸として、東アジア世界において3世紀という時代が果たした意義について総合的な研究を推進する。”

The purpose of this seminar is to clarify the regional features and the relationships among the societies of China, Korea and Japan in the 3rd century. In this age, after the collapse of the Han dynasty and the formation of Three Kingdoms, the tribal societies of Korea and Japan had developed to the Chiefdom stage. San-Guo-Zhi (三国志) describes these local societies and their changes in detail; also, the number of archaeological records of this area has been increasing recently. Through textual, historical and archaeological studies, we will point out the significant role played by local societies in 3rd century Asian history.

5. 本年度の研究実施状況

本年度は、研究室における少数対面とZoomによるオンラインとを併用し、前期6回、後期10回、合計16回の研究会を実施した。特に本年度に重点的に検討を進めたのが、河

南省洛陽西朱村曹魏大墓から出土した 300 点あまりにおよぶ 3 世紀の石牌銘文である。この曹魏大墓出土石牌の注釈作成と、個人の研究報告を 2 本の柱として共同研究を実施した。曹魏石牌銘文については合計 8 回の検討会を通じて、先行研究の分類を再整理して既往の解釈を見直し、新たな注釈を作成した。一方、班員とゲスト研究者による個人の研究報告を合計 8 回実施し、竹林の七賢（劉伶）、高句麗古墳壁画の思想、ガラス玉の流通、3 世紀の西域の状況、漢唐間における服制の変遷、東アジアの鉄製武器、後漢・曹魏の鏡についての調査研究成果などが報告された。一連の共同研究を通じて、3 世紀東アジアの文物について、制度・儀礼・思想・地域間交流などさまざまな視点から議論を深めた。

6. 本年度の研究実施内容

2021-04-23 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘釈（1） 遺策・衣物疏・楬：曹魏墓出土石牌検討の前に 発表者 森下章司 大手前大学

2021-05-14 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘釈（2） 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘釈：飲食類 発表者 森下章司 大手前大学 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘釈：衣服類 発表者 向井佑介 京都大学人文科学研究所

2021-05-28 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘釈（3） 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘釈：起居類（1） 発表者 向井佑介 京都大学人文科学研究所

2021-06-11 3 世紀東アジアの文物と思想（1） 劉伶「酒徳頌」：その文学史上の意義とテキストの問題点 発表者 金文京 京都大学名誉教授

2021-06-25 3 世紀東アジアの文物と思想（2） 高句麗壁画古墳の昇仙思想：龕神塚への「天への階段」から 発表者 南秀夫 大阪市文化財協会

2021-07-09 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘釈（4） 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘釈：起居類（2） 発表者 向井佑介 京都大学人文科学研究所

2021-10-08 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘釈（5） 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘釈：起居・騎乗・佩剣類 発表者 森下章司 大手前大学

2021-10-22 3 世紀東アジアの文物と交流（1） ガラス玉の流通からみた紀元三世紀 発表者 大賀克彦 奈良女子大学

2021-11-12 3 世紀東アジアの文物と交流（2） 3 世紀頃の西域：『魏略』西戎伝に記された世界 発表者 内記理 京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター

2021-11-26 3 世紀東アジアの文物と交流（3） 漢唐間における服制史概観：朝服制度の変遷を中心に 発表者 小林聡 埼玉大学

2021-12-03 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘釈（6） 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘釈：首飾・佩飾・礼楽類 発表者 森下章司 大手前大学

2021-12-17 3 世紀東アジアの文物と交流（4） 黒塚古墳出土鉄器：3 世紀の鉄器 発表者 水野敏典 奈良県立橿原考古学研究所

2022-01-14 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘釈（7） 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘釈：礼楽

類（楽器） 発表者 森下章司 大手前大学 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘積：遊戯類 発表者 向井佑介 京都大学人文科学研究所

2022-01-28 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘積（8） 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘積：遊戯類補遺・文房類ほか／曹操高陵出土石牌銘選積 発表者 向井佑介 京都大学人文科学研究所 曹操高陵出土石牌 発表者 森下章司 大手前大学

2022-02-04 3世紀東アジアの文物と交流（5） 中国で発見された景初三年鏡／画紋帯神獸鏡の東伝：型式と鉛同位体比からみた九子派の動態 発表者 岡村秀典 京都大学人文科学研究所

2022-03-18 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘積（9） 曹操高陵・洛陽西朱村曹魏墓出土石牌の性格 発表者 森下章司 大手前大学 洛陽西朱村曹魏墓出土石牌銘積：総括と展望 発表者 向井佑介 京都大学人文科学研究所

7. 共同研究会に関連した公表実績

なし

8. 研究班員

所内

向井佑介、岡村秀典、稲本泰生、宮宅潔、古勝隆一、古松崇志、藤井律之、高井たかね、目黒杏子

学内

吉井秀夫(文学研究科)、下垣仁志(文学研究科)、坂川幸祐(総合博物館)、大谷育恵(白眉センター)

学外

森下章司(大手前大学)、長友朋子(立命館大学)、井上直樹(京都府立大学)、諫早直人(京都府立大学)、金字大(滋賀県立大学)、田中一輝(椋山女学園大学)、山本堯(泉屋博古館)、馬淵一輝(黒川古文化研究所)、王含元(北京大学考古文博学院)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	外国人	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	外国人	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
学内(法人内)	1	14	0	2	1	0	131	0	6	4	0
		(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(36)	(0)	(0)	(0)	(0)
国立大学	3	3	0	0	0	0	20	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
公立大学	1	2	0	1	1	1	28	0	13	13	13
		(1)	(0)	(1)	(1)	(1)	(13)	(0)	(13)	(13)	(13)
私立大学	3	3	0	0	0	0	35	0	0	0	0
		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(13)	(0)	(0)	(0)	(0)
大学共同利用機関法人	1	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0
		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(4)	(0)	(0)	(0)	(0)
独立行政法人等公的研究機関	2	2	0	0	0	0	5	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
民間機関	1	1	0	1	1	0	2	0	2	2	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
外国機関	2	2	1	1	1	1	8	7	7	7	7
		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(7)	(7)	(7)	(7)	(7)
その他 ※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
計	14	28	1	5	4	2	233	7	28	26	20
		(7)	(1)	(2)	(2)	(2)	(73)	(7)	(20)	(20)	(20)

※「その他」の区分受入がある場合
 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員
 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	1			
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	1	(1)		
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)				
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)				
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)				

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

雑誌名	掲載論文数	掲載年月日	論文名	発表者名
史林 104-5	1	R3. 9	舶載された王莽宮廷鏡：大阪府紫金山古墳出土方格規矩四神鏡の鉛同位体比分析から	岡村秀典
東方学報 96	1	R3. 12	千石コレクション漢六朝青銅器の化学分析	岡村秀典・渡邊緩子・隅英彦・太平理紗・種定淳介

本年度 共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名
東アジア古代の車社会史	岡村秀典	R3. 7	臨川書店

11. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

12. 次年度の研究実施計画

なし

13. 次年度の経費

なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

本研究班の検討成果のうち、曹魏大墓出土石牌に関する部分を 2022 年 5 月の東方学
者会議（ICES）シンポジウムにおいて発表するほか、石牌銘文の注釈・整理成果を 2022
年 12 月刊行予定の『東方学報』第 96 冊に掲載する予定である。また、3 世紀東アジアの
文物を中心として、飲食、儀礼、農耕、都城、陵墓、車馬、交易と交流などの諸問題につ
いての研究成果をまとめ、2 年以内に論文集を刊行する予定である。